

平成21年11月13日

発行 熊谷税務署  
熊谷税務署管内  
納税貯蓄組合連合会

# 税についての作文集



中学生

## 受賞者一覧

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞  
熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立小島中学校 三年 山中 美紗子さん  
深谷市立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

熊谷市立立上柴中学校 三年 飯島 里佳さん

深谷市長賞 田島 さくらさん  
深谷市立南中学校 二年 小熊 由希さん

寄居町長賞 寄居町立男衾中学校 三年 佐藤 麻美さん

熊谷市教育委員会教育長賞 熊谷市立中条中学校 三年 原口 有志さん

深谷市教育委員会教育長賞 深谷市立川本中学校 三年 小島 茜さん

寄居町教育委員会教育長賞 寄居町立男衾中学校 三年 大澤 奈々さん

熊谷国税庁二タ一会長賞 熊谷市立荒川中学校 三年 齋藤 沙友里さん

寄居町立城南中学校 三年 長谷部 綾子さん

熊谷市立玉井中学校 三年 輿水 わかなさん

熊谷市立明戸中学校 三年 松本 雅裕さん

深谷市立明戸中学校 三年 益田 志帆さん

熊谷市立富士見中学校 三年 大淵 英恵さん

寄居町立寄居中学校 三年 大澤 徳仁さん

熊谷市立江南中学校 三年 森田 都子さん

深谷市立幡羅中学校 三年 柴崎 広樹さん

寄居町立寄居中学校 三年 内野 瑞季さん

深谷市立藤沢中学校 三年 山田 朱里さん

深谷市立花園中学校 三年 垣本 樹里亜さん

深谷市立深谷中学校 三年 門倉 菜月さん

熊谷市立熊谷東中学校 三年 松本 莉奈さん

熊谷税務署管内 納税貯蓄組合連合会 佳作  
熊谷市立大原中学校 三年 岸 真依子さん

熊谷市立玉井中学校 二年 海老澤 志穂さん

熊谷市立大原中学校 三年 上野 友梨奈さん

熊谷市立吉岡中学校 三年 松本 愛子さん

熊谷市立三尻中学校 三年 須田 美樹さん

熊谷市立大幡中学校 三年 関谷 大河さん

深谷市立幡羅中学校 三年 田口 結実さん

深谷市立上柴中学校 二年 青木 諒さん

深谷市立豊里中学校 二年 須佐 柚美さん

深谷市立岡部中学校 三年 菊池 香穂さん

深谷市立花園中学校 三年 森 充生さん

### 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 沙也加さん

された。早朝にもかかわらず医師により適切な処置をして貰う。祖母の尊い命が救われたのだ。その他の緊急時に対応してくれる消防や警察も、私達が安全な生活を送る為になくしてはならない税による社会的保障なのだ。

祖母の退院後、再び我が家にピンチが訪れた。不自由な体により介護が必要となったのだ。母が一人で祖母の世話をしていた。しかし、毎日となると負担が大きくなる。その時資格の持つ施設の人達に介護とリハビリのお手伝いをして貰ったのだ。祖母は安心して介護をして貰い、母も手のあいた時間に体を休め税の恩恵に感謝していた。まさに税金は、弱い立場の人の力強い味方であったのだ。

毎日の家庭生活の場では、必ず出るゴミの問題がある。定期的なゴミの収集により、清潔な町作りが健康を推進しているのだ。税からの安心保障なのかもしれない。しかもゴミは無料である。このありがたい恩恵のいかにもなく、ゴミ処理費用は年間二兆円を遥かに超える金額を、税金で賄っているのだ。余りにも多額な公費で驚くばかりだが、これが実情だ。当然の生活になり過ぎて、私達には感謝の気持ちさえ失われている。しかし、私達の生活には税が、これ程密着しているのだ。確かに税を支払うことは、形ある物を手にする訳ではない。だから大事なお金を取られている錯覚を起こしてしまう。この誤ちを見過してはいけないのだ。納税することが人の役に立っていることにも気づいてほしい。

そして、これまで国と税社会を築いてくれた先人達の苦勞と努力の下で、支払われた税金から私達が支えられている事実も、絶対に忘れてはいけないことだ。このように、税制度とは、人が共に助け合い守り合って、共生していく為のなくてはならない仕組みだったのだ。

近い将来、私も社会を支える一人の納税者になる。納税する側からは、不正や無駄をなくしより良い社会作

忘れられている税金を納める意義  
私の税に対する知識は、本当に数える程のものだった。買い物をした時の消費税。仕事をして貰う賃金から自動的に、国へ所得税や住民税が取られている良くないイメージが大きい。恐らく、私のように大人になるまで関心がない子供達がほとんどだろう。しかし、税金の意義を知る事で私の考え方は一変した。  
中学生の私達が国から貰う年間の教育費用一人あたり、九十五万二千円という、想像もつかない金額だった。学校施設も机やイス、教科書も全て税金から供給されている。他国には、教育に全く無縁の子供達が沢山いるのに、なんて幸せなことだろう。  
自宅で突然倒れた祖母の緊急時。二九番通報から救急車で病院に搬送

りを目指してほしい。そして未来を作る私達は、税の真の意義を知りきちんと納税をすることで、私達の出来る義務をしっかりと果たし、大事な役目を担っていく大人でありたいと思う。

共に生きる税

熊谷市立小島中学校

三年 山中 美紗子

私達の学校では、花いっぱい運動といふ全校の児童、生徒で学校に花を植え、きれいな学校を作ろうという生徒会の取り組みがあります。今年、バンジーの後、サルビア、マリゴールド、ペゴニアなどをプランターに植えました。教室の前にはゴーヤ、アサガオ、フウセンカズラなどのつるの植物を植えて、直接日がささないようにし、定期的に、温度を測って違いを調べることにしました。

校舎裏、プールわき花壇には種をまいて成長した百日草、さし木をした菊、苗から植えた花々が夏休み中から咲きほこっています。

そして地域の赤石さんがきて菊植えのやり方を教えてくれました。

それぞれの花が学校じゅうに咲いていて、とてもきれいです。きれいな環境は人間の心を落ちつかせてくれます。私達の住む社会も安心して住めて、毎日幸せだと感じられるのです。それぞれの役割りを自覚し、私達の生活を守ってくれる税金のようだと私は感じました。花は時期がすぎれば枯れて、種をのこします。土の中で寒い冬を越してまた、新たな花を咲かせていきます。

親から子供へ伝えていくこと。世の中のルールが整い、明るい社会をそれが導いていくのです。

花がきれいに咲くためには、私達は少ない人数で水やりを何度もしました。それらはすべて、きれいに花を咲かすためです。

その他にも学校の生活の中で税によつて、支えられているものはたくさんあります。

私達は毎年、読みたい本のリクエス

トをします。私達の住む熊谷市では以前に比べて図書費が増えたそうです。朝読書で読む本が、たくさんあるのはたのしいです。

私達中三は来年からいよいよ高校生になります。義務教育ではありませんが、高校でかかるさまざまなことにも税金が使われているそうです。

私達が一人立ちして、大人になるまでに、かかってくるお金は一人一千万円ぐらいと、なにかでお金がかかるとあります。すべて自分達で負担することとなると大変です。私達が成人して、働くようになって、社会に恩返しをして、今までの補助が生かされてくることではないでしょうか。

税のカタチ

熊谷市立上柴中学校

三年 飯島 里佳

義務教育九年目。生きてきて半分は学校で過ごしてきました。生徒は一人ひとりが授業に座り、机の上に教科書を広げて授業を受けます。今までずっとそうしてきたから、その光景が当たり前だと皆さんの支えがあることなど考えたこともありませんでした。

私の学校は、市内の学校の中でも一番人数の多い学校です。そのため教室の数も多く、机やイス、ロッカーや清掃用具...など備品もたくさん必要です。義務教育は無償と定められている中で、どうやって学校を維持しているのでしょうか。

私は、学校が一年に決まった補助金を国から支給されていることを知りました。そのためお金は、私たちがよりよい学校生活をおくるために税金から出されています。税金は国民一人ひとりが国、地域、そして国民のために貢献できるような納められている大切なお金です。その税金が、補助金として私たちの身近なところで使われていると知り、とても驚きました。

思い返すと、中学一年生の頃、学校の中はボロボロでした。ガラスが割られたり、電気のスイッチが壊されたり、壁には穴があいたり。毎日どんどん

校舎は壊れていきました。そのたびに修理で税金が使われます。私たちが物を大事に使わないから、感謝していかないから、このような現状になってしまったのだと思います。一生懸命、親が働いて納められた税金がこんな形で使われることを親は望んでいません。そして、快適に学校で生活できるように、私たちの未来のためにと国が補助してくれたお金も、たくさん人の努力が裏切っていたんだな、と改めて感じました。

三年生になった今、一年生から三年生までの全クラスに扇風機が四台ずつ設置されました。また花壇にはきれいな花、池にはたくさん鯉など学校が見違える程きれいになりました。これは、昔たくさん働いてきた、現在高齢の方や今、一生懸命働いている社会人の納めた税金が、かたちをかえて自分のお金になっていくんだと実感しました。自分のお金で税金が誰かの所で力となり、お互いにやさしさや笑顔を与え、人々を繋いでくれているものだと思います。

私は教科書の裏にある¥りを見て、とても心が温かくなりました。明るい未来を私たちに託すというたくさんの人たちの思いが詰まった教科書は税金が私たちをかえてきた、国の財産です。どんな高い参考書よりも何十倍、何百倍もの価値があり決して何ものにもかえることはできません。未来の子ども達にも同じ教科書で勉強して、いつか世界中の人が笑顔で幸せに暮らせるような明るい未来をつくらせていきたいと思います。

関東信越税理士会埼玉県支部 連合会 会長 賞

税は架け橋

熊谷市立富士見中学校

三年 新井 久美子

「わあ、お母さん見て。道路が水浸しになってるよ。」

道路からゆらゆらと熱気が立ち昇るような夏の夕方、駐車場の前の道路を見て妹が言いました。見ると、道

路のちょうど真ん中のあたりがひび割れていて、そこから水がしみ出ています。水は左右に流れ、ちよつとした水たまりになっている所もありました。近所のおじさんが市役所に連絡したということで、これから三十分くらいこのうちに工事車両が六台来ました。交通整理をする人、道路の切り込みを入れ作業を始める人、様子を記録する人、役割は分担され、作業が進みます。

どの作業の人々もみな汗だくです。夜九時頃にはすっかり修復し、道路はきれいになりました。聞けばこの辺りの水道管はみな古くなっているのだそうです。水が漏れたままになっていたら夜の内には通行できなくなってしまう。朝には多くの人が困ったはずでした。

こんな身近な場所で、私たちの支払った税金が使われていたということに、私は少し驚きました。自分の少ないお金のなかから本を買い、消費税を払います。正直、「なんで消費税なんて取られるの」とレシートを受け取りながらいつも思っていました。父や母も給与明細や銀行の通帳を見ながら「税金が...」と渋い表情になることがあります。

けれども、税金は私たちの生活を縁の下の力持ちのように支えていたのです。税金という制度がなければ、救急車を呼んでも料金を支払わなければならなかったり、ゴミを出すのに代金を払わなければならぬのだ、というビデオを小学校の時に見たことがあります。その他にも、生活の中で税金のお陰で成り立っている事がどれほど多いでしょう。

公立学校の児童、生徒一人当たりの年間教育費は、小学生で八十三万円、中学生で九十五万円、高校生で九十三万円が税金で使われているそうです。中学を卒業するまでにひとりあたり七百八十三万円かかる計算です。

また、普段何気なく教科書を使っていますが、その裏には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの

期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書いてあります。特にこの言葉に目を留めた事はありませんでしたが、今回税の事を考えるにあたってこの言葉をかみしめました。

「情けは人のためならず」とよく父は言います。「情けは人のためではなく、いずれは巡って自分に返ってくるのであるから、誰にでも親切にしておいた方がよい」という意味ですが、これは税にも言えることだと思えます。今、私たちが税の恩恵を受けて成長しています。そして、大人になってからは胸を張って納税をしたいと思えます。税は次の世代への架け橋なのです。

埼玉県納税貯蓄組合 総連合会 優秀賞

熊谷市立妻沼東中学校

三年 長島 有希

先日、母と熊谷スポーツ文化公園に散歩に行ってきた。日々草や金魚草などピンクや白や黄色の花を見ながら、蝉の声を聞き、母と楽しくしゃべりながらゆつくり公園を一周。その後、きれいに刈られた芝生でバドミントンを楽しんだ。心身共にリフレッシュできた一日だった。公園を整備・管理してくれている人がいるから、快適な一日を過ごすことができたのだと思う。

このように公園の整備・管理をしてくれる人の給与は税金でまかなわれている。私たちは、税金があるからこそ、快適に暮らせることが多いたのではないだろうか。地域の環境衛生を考える人が、毎週、ごみ収集をしてくれる人がいる。読みたい本を借りたいとき、集中して勉強をしたいとき、図書館は絶対必要である。水道をひねれば、おいしい水が飲める。それは、浄化水場で働いている人がいるからだ。もし、税金がなくなったら、こんなに快適な生活を送ることができなくなるのだろうか。

北海道で登山事故があったとき、

集中豪雨で水害にあつたとき、童巻で被害にあつたとき、真っ先に動いてくれたのは、自衛隊の方々だった。盗難事件や殺人事件、薬物の取り締まりをしてくるのには警察官。火事があればすぐに現場に駆けつけてくれるのは消防隊。交通事故でのけがが、夜中の病人など助けてくれるのは救急隊員。国立医療研究所では新型ウイルス抗体の研究やがんの研究をしてくれている人がいる。地震が起きたら津波情報や避難情報を流してくれる人がいる。

もし、税金がなくなつたら、今まで安心して暮らしていた生活はなくなつてしまふ。

私たちは、九年間、当たり前のように義務教育を受けている。無償で教科書をもらい、授業料も払わず、学校施設や机、椅子使用も無料。毎日、勉強したり友達と話したり、部活をしたりと楽しい学校生活を送っている。先生方も熱心に私たちにいろいろなことを教えてくれる。だから、中学を卒業したら、高校へ進学校、将来はこんな職業に就きたいという夢を誰もが持っている。

もし、税金がなくなつたら、どうなるのだろうか。親の収入によつて学力も違つてしまふ。学校に通えない人も出てくるかもしれない。全く、字が読めなかつたり、書けなかつたり、簡単な計算さえできない人も出てくるかもしれない。そして、将来の夢を持っている人がかなり減つてしまふのではないだろうか。日本全体が暗く、元気のない国になつてしまふような気がする。考えるだけで、こんな国では生活したくない、と思つてしまふ。

だから、税金というものには必要であり、大切なものだと思う。これかれも、快適で安心して暮らせる日本であるように、そして、夢を持てる日本であるように、税金を使つてほしいと思ふ。

熊谷市立玉井中学校  
三年 佐々木 結姫

税金と国民と世界

私は税について、あまりよくわかりませんが、税というものは、日本国民の生活にとっても役立つと思います。そして、みんなで出し合つたお金が、みんなのために使われているという事、とても喜ばしい事だと思います。例えば、教育費であったり、公共物・施設、そして私達国民の健康を守つて頂き、本当に助かっています。

どのような事が助かつたのかというと、私の兄弟は四人で、もし税の助けが無かつたら、多くの教育費を賄わなければなりません。そして、もう一つは、中学三年生まで、診察代が無料な事です。私はよく怪我をし風邪を引きますがいつも税が負担してくれています。これなら、毎日の生活が楽しくおもしろい運動が出来ます。このように税金は、国民の支えの一員です。

私が一番驚いたことは税金が「発展途上国の経済援助」として使われていることです。私達が少しずつ払っている税が国境を越え、違う国々の助けになつていくと聞き、とても感激しました。そして、自分の国の素晴らしさと温かさを改めて実感しました。同時に、そのような試みをされた方々は本当に温厚な人なのだと感じました。

世界には約千六百万人の難民がいて、その約八割が女性や子供という現実です。そして私が思つたことは、税金のムダ使いをやめ、困つている人々を、沢山の泣いている子供達を救えないのかと考えました。確かに、日本をもっと豊かにする事も、この不景気も、日本の借金を返す事も大切な事です。ですがそれ以上に苦しんでいる人々はどうするのでしょうか？不景気でも好景気でも変わらず苦しむ人々の方が日本の税金が必要だと思ふます。世界を救ふことは日本を

救ふこと。私は税金で今の日本の状態を大きく変えることが出来ると思ふます。

そして税金のムダを無くすには、政権が変わるのも大切ですが、その後国民が大きく変わるべきです。税金は少し高くしても良いと考えます。多少、生活は苦しくなりますがその分、例えば残さず食べれば、お金も浮き、元気が出て、物のありがたさを知り、他の国の人々を助け「平等」が「世界の平等」へとつながるのではないのでしょうか？なお且つ、日本国民の何が甦ると思います。今の数々の党は変わつていきますね。本当の国民の幸せとは何なのか。中学生の私にはわからない事がたくさんありますが、今、重視するべきことは、日本国民の負担を少なくするより、日本国民自身を、変えることではないでしょうか。たつた一人の私の意見ですが、国民について、税金について、よくよく現実を見てほしいです。そして、それから国民の負担を少しでも減らしてあげればよいと思います。

税金で日本国民の心を動かす事は出来ないのでしょうか？

税金を納める  
深谷市立幡羅中学校  
三年 鈴木 美咲

私が身近に感じる税は、コンビニやスーパーでする買い物時に支払う消費税です。消費税についての知識は、あまり今でもありませんが、一番の思い出は、百円と書かれたお菓子をレジに持つて行くと、百円では買えないと、消費税を支払うことになりました。消費税を支払うことが分かってから、消費税を支払うことになったのです。この体験が、私にはじめて、税金と云うことを知つた時の体験です。

このように、私たちが支払う税金が、周りに沢山あることも、今回感じました。お酒にかかる酒税、たばこにかかるたばこ税など他にも沢山あります。そう考えると、この税金はどのように使われて行くかについて考えてみたいと思ふます。その前に父か

ら、聞いた私たちが払う税金が国としての運営をしていくと、聞きました。私たちの毎日の生活は、私たちが納めた税金でまわつているとも思えて来ました。

納税することが結果として、自分の生活を守ることに繋がつて行くことに気がきました。それにしても、知らなければ知るほど、税金の種類の多さには、びっくりしました。

その内容を理解するには、納めた税金がどのように使われているかについて、考えなければ思ひました。この作文の募集のチラシには、「税金は、みんなのために使われています」と、書いてありました。そのことばを見て、みんなのために、どのように使われているかを、理解し納税に対する重要さを探つていきたいと思います。

税金の使われ方については、教育や福祉をはじめ、生活に必要な道の開発などがあります。個人では、なかなかできないことが、国民の皆様の納税されたお金の中で、行なつていくことに気がきました。

国や地方公共団体は入つて来たお金を多くの国民のために使うよう、考えられています。

多くの人が幸せに暮らすために、決められた義務があります。国民の三大義務の義務教育や勤労の義務、納税の義務があります。この義務をはたすのは、国民の義務であることを声を大に伝えたいと思ひました。

私たちが、毎日なにげなく過ごしている毎日が、あたりまえのように見えて、あたりまえでないことに気づくことが出来ました。

税金は、国を発展させ維持して行くためには欠かせない財源です。私たちが、公的サービスを受けるために必要な費用をまかなつていくことも、父が、色々な形で納める税金が、私たちの生活を守るために使われていることを、知り、多くの国民の幸せのために、私たちが一人々が、自分で考え、義務をはたすことの重要性を感じま

した。最後に、私の感じた税とは、未来へ続くいしづえを築くためのものであつてほしいと思ひました。

熊谷市立妻沼東中学校  
三年 須永 明日香

納税について考えよう

日本では、憲法で三つの義務が定められています。そのうちの二つが「納税の義務」です。けれど、どうしてそんな義務が定められたのでしょうか。ふと疑問に思い、私は税金について調べてみました。

もし税金がなくなつたら、どうなるのでしょうか。調べてみると、救急車が有料になつたり、医療費が全額自己負担になつたり、ごみ収集が有料になつたりすることがわかりました。中でも、交番が有料になるということに驚きました。おまわりさんに道を訊くだけでもお金を取られるなんて、考えられません。しかし、税金がないと、そのようなことが現実になるのです。つまり、税金を払うことで、私達はあらゆる公共サービスの使用料を免除されているのです。

また、学校や公園など、私達が使用するあらゆる公共施設は、税金でつくられています。私達が納めている税金の大半は、私達がよりよい暮らしをするために使われているのです。しかし、最近では、税金に関する問題が増えています。

例えば、税金が無駄遣いされていくという事です。ニュースで、政治家が個人的なものをかうのに税金を使つていくと聞きました。また、無意味な道路工事なども無駄遣いです。私の両親が、「一生懸命働いて払つている税金を無駄遣いされちゃ困る。」と言っていました。本当に困つたものなんです。中学三年生の私だって、消費税を払っています。それを無駄に使われるなんて、腹が立ちます。税金の無駄遣いは、是非ともなくしてほしいで

また、税金を払わない人が増えていくと知りました。無駄遣いも困りますが、そもそも払わなかったら、暮らしを豊かにしてくれるものをつくることができませぬ。納税は、法律で定められた義務です。つまり納税は、違法です。どんなに小さな子供だって、買物すれば税金を払っているのですから、払いたくないとしても、しっかり払ってほしいものです。

私は、税金について調べてみて、納税が義務付けられている理由がわかった気がします。税金は、より快適に生活するために、必要不可欠なものです。しかし、せっかく払った税金も間違った使い方をされては払った意味がありません。また脱税は、払っている人からすれば迷惑です。

**大里地区租税教育  
推進協議会長賞**

**税金に感謝**

熊谷市立玉井中学校

一年 長谷川 侑璃

私は、税金の作文を書く前まで、医療費はただ、教科書もただと言うことが当たり前だと思っていた。しかし、税金のことを調べていくうちに初めて税金の大切さを知ることができた。

私の住んでいる熊谷市では、歳出の三割以上を民生費が占めている。民生費は、生活保護や子供医療などの福祉にかかる経費だ。その中でも、中学三年生まで子供医療費無料化制度は、埼玉県の中の熊谷市だけで、家計の経済負担が軽くなり、子供を持つ親にとっては、とても有難い制度である。

また、熊谷市では、四か月を迎えるまでの赤ちゃんのいるすべての家庭を保健師などの専門職が訪問するという「こんにちは赤ちゃん事業」最

近では、核家族化が進んで、育児の孤立を感じるお母さん方も多くなっている。そうしたお母さん方の手助けになって、とても良いと思う。また、私も小学校の時お世話になったが、児童クラブの整備である事業が、放課後児童保育室整備事業。仕事と家庭を両立というだけではなく、子供たちの放課後の安全を守り、親が安心して働けるように考えた事業だ。

このようなことから、人は絶対一人では生きていけない。多くの人に支えられて今ここに自分があることを、税金について調べて感じることで、日本は、義務教育だ。これからの日本を担う私たちに期待をこめて、国民の税金によって無償で教科書を交付し勉強をさせてもらっていると言っていることを忘れてはいけない。世界中を見ても貧困で学校に通えない人がいる。そういつた中で、当たり前前に勉強できることに感謝しなければならぬ。

国民一人一人が、税金を払っていることと税金の使われ道をもっと知ることが大切である。そうすれば税金の無駄づかいもなくなくなるのではないかと思う。そのために私は、精一杯勉強して未来の子供たちが、希望をもつて生きていけるよう、大人になったら社会の一員として納税したいと思う。

よりよい日本にするため、よりよい世界にするため、今自分のできることを探していきたい。

**埼玉県熊谷県税  
事務所 所長賞**

**やがて人をつなぐ税金へ**

熊谷市立大里中学校

三年 鈴木 茉莉亜

私たちは、常に税金との関わりがある。直接的なものもあれば、間接的な関わりものもある。払う税金を受ける税金。それぞれの感じ方もさまざま。

中学生の私に直接的な関わりのある消費税。買い物中、百円のワンコインで買えないことに不満を持つ。だが、

その税金、五円には、たくさん役割があるのだ。その一部も、実際に役に立っている。例えば、教育費だ。私が今、中学校に通っているのは教育費に支えられているからだ。もしも、私が貧しく税金の無い国に産まれていたら、今頃どうなっているかわからない。もしかすると、言葉も文字も書けない子供だったのかもしれない。そんなことを考えると、国のため、税金を払っている全ての人々のため、学校に行きたくても行けない人たちのために授業を大切に、勉強をがんばろうと思う。身近であたり前のような生活だが、税金には感謝をしなくてはならない。

また、子どもの私たちには直接関わりが無い払う税金がある。その種類はさまざま。払うことには関わりがなくても、私たちは税金を支えられた毎日を通して。外に出れば、きれいな道があり、街に行けば、図書館などの公共施設がある。みんなを使うものには、みんなが払う税金を使う。そう考えたら税金は、日本を支えるなくてはならないお金だ。そして、税金は自分や日本の大切な貯金でもあると思う。使わないときは、しっかりと貯めて、使うときは目的通りに使い、また貯めて、その繰り返しで日本を支える税金だと思おう。

税金は、日本を一つにしてくれるものだと思う。日本中の全ての人々が払った税金。やがて、それは、日本をつなぐ大切なものになる。たとえ、どんなに小さなものでも。

私は最近、税金を払うことに価値があると思う。それは、私が払った税金が、どこかで役に立っていると思うからだ。私は、全ての人にこの気持ちを持ってほしいと思う。そうすれば、今まで税金に不満を持っていた人もきっと納得してくれると思うからだ。それから、全ての人がこの気持ちを持つことで日本が一つになり、「税金」という大きなパトロンになると思うから。そうすれば、きっと税金本来の目的がわかり、日本全体が豊かになると

**関東信越税理士会  
熊谷支部支部長賞**

**税について**

熊谷市立大麻生中学校

三年 松本 彩香

私は税金について深く考えたことありませんでした。しかしこれをきいて考えようと思いました。私は税を納めることはいいことだと思いません。それに私たちは多分、税金がないと生きていけないと思います。中学生の私たちが納める税といえれば何か物を買う時、必ず含まれている消費税です。今は消費税は5%含まれていますが、この消費税これから増えるかもしれない。海外に行くともっと高い消費税のところもあります。この消費税も大事な税金です。これでいろいろな物が作られているんだらうなあと、思います。もった大人になるのもっとたくさん税金を払うんだらうなと思います。今私たちがのために、使われている税金は、学校、教育、公園、福祉関係、道路建設、たくさんの方に使われています。私の家の前にはバイクが通っています。私の前には皆さんの車が通っています。このように毎日車が通っているのも税金で作った道路のおかげ。毎日事故なく安全に走っているのは信号機が正常に動いているのおかげ。みんなが使う物はほとんど、税金です。私は今中学校に通っています。私たちの学校の体育館は今年新しくきれいなになりました。私が入学した時は古い体育館でした。しかし去年体育館がとりこわされ、今年ピカピカの体育館が完成しました。このピカピカの体育館も税金のおかげだと思っています。なので私はみんなの税で作った体育館を傷つけないよう、ずっときれいにしていきたいです。税は学校、教育にはかせないものだと思います。教科書は、日本国民の税金で無償で配られています。

**編集後記**

本年も、熊谷税務署管内の各中学校の諸先生方をはじめ、納税貯蓄組合の会員各位、更には、熊谷税務署の2支援を賜り、中学生の皆さんから4,773作品という多数の応募をいただくことができました。あらためて心より感謝申し上げます。

本来であれば、税について一生懸命書き上げていただいた入賞者全員の作品を掲載したいところではございますが、紙面の都合上、受賞された方の一部の作品しか載せることができませんでした。このことをご容赦いただければと思います。

この作文集が、中学生をはじめ、多くの方々に読んでいただき、税についての理解を深めてもらい、関心を持ってもらうことを期待しております。

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会  
〒330-0104 熊谷市宮町二二九  
電話 〇四八―五二―四六〇〇